

研究者の素顔や生き方、いかがでしたか?
京大キャンパスの迷い猫は
幸せの青い鳥ならぬ青いリボンを身につけて
好奇心旺盛にあちこち顔を出しています。
リボンで繋がる未来へのメッセージが
あなたに届くことを願って…



京都大学

研究国際部／男女共同参画推進本部（男女共同参画推進センター）／学術研究支援室

未来に 繋がる 青いリボンの エトセトラ



男女共同参画推進
センターから

あなたの未来の姿をイメージしてみませんか？



奈良女子大学理学部卒業。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部助教授（女性初）、同大学院理学研究科助教授を経て同生命科学研究科教授に就任。生命科学研究科長（女性初）を務めた。米国ロックフェラー大学連携教授を併任。免疫システムにおける樹状細胞の主要な役割の解明に貢献し、2014年「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」を受賞。



副学長
男女共同参画推進センター長
生命科学研究科 教授

稻葉 カヨ

Girls, be Ambitious!

研究の魅力は、自分で仮説立て、実験や観察、調査をして、正しいかどうか自分で確かめられるところにあります。好きなことや興味があることでなければ続きませんが、それを継続させる力も必要です。そのためには、好きなことを見つけて、いろんなことにチャレンジし、自分の力を蓄えていくことが大事です。

チャレンジしないで「やっておけばよかった」と後悔するよりも、やってみてダメだった後悔の方がまし。チャレンジして失敗しても、それは経験になるので、また挑戦すればいいのです。失敗してもめげない、落ち込まないことも大切。それができる人はチャレンジ続けることができます。

研究者になろうと思っても、高校生や学部生のうちはまだ漠然としたイメージしか湧かないでしょう。大学で学び、研究を進めていくなかで、向き合いたい研究対象が変わってくることもあるし、その人の能力や、向き不向きもあります。また、研究はいろんな人との巡り合わせのなかで行われていきます。研究テーマを探す際も、その研究テーマのなかで、どういう人たちと、どう繋がるかが大きくなかかるわってきます。

自分が置かれた場でできること、その先に見えることに対して、精一杯、取り組んでください。



延與佳子 p.3

何にでも興味を持って、おもしろいと感じたら、その気持ちを大切してください。
いろんなことに関心を持ちながら、いい出会いがあったときに発揮できるよう、今、力をつけておいでほしい。



島田裕子 p.4

大切なのは、楽しく勉強すること。
あまり難しいことを考えずに、「勉強したいから研究者」という道もあります。



永友文子 p.5

「好きこそものの上手なれ」ですね。
好きだったら苦手なことも、困難も乗り越えていけると思うので、好きという気持ちを大切にしてほしい。



吉永直子 p.6

生きものと向き合う研究に必要なのは、数式よりも観察やロジック。
いろんなデータを読み取って、あちこちに潜む伏線を読み解いていく、推理小説のような感じなので、数学や化学が苦手な人でもできますよ。



金光桂子 p.7

若くて感性が豊かなうちに、
ジャンルにとらわれず、たくさん本を読んだり、
いろんな体験をしてほしい。
文学というのは、
人間のいろんな行いや考え方を書いたものなので、
それなりの体験を積んでいないと理解できないこともあります。



内田由紀子 p.8

勉強する、探究することは、とてもおもしろいこと。
それができるということは、恵まれているということ。



小林志保 p.11

自然現象や身近なできごとについて不思議に感じたとき、「何でかな？」と考えることが好きであれば、苦手な科目があっても気にせずに、挑戦してみてほしい。必要な知識や手法は後からでも勉強できるので、そんなに困ることはあります。



北村恭子 p.13

工学部は女子学生が少なそう…とためらっていませんか？
京都大学は、常にまわりに素敵な人たちがいて、絶対満足できる環境だと思います。
研究してみたいと思ったらぜひ、どんな分野でも挑戦してほしい。



山田真澄 p.12

やりたいことをやればいい。
やりたければ努力するし、モチベーションも上がります。
人がああしろ、こうしろと言ふのではなくて、自分がやりたいことをやる方が良いと思います。



飯間麻美 p.14

今は興味の湧かない科目でも、避けずに勉強してほしい。
そうすることで、進路や研究対象の選択肢が増えます。
興味ある分野に「こうなりたい」というロールモデルがいなくとも、自分自身で道を切り開いていけるように。

研究テーマ：原子核の構造に関する理論的研究



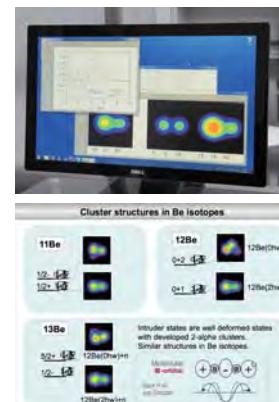
コーヒーを淹れているときに、ひらめくことも。思考は常に研究モード



夢中になって、やめられなくなった瞬間がありました

修士課程までは、原子核の研究がおもしろいから「もうちょっとやってみたい」という感じで、研究者になることは、まったく意識していませんでした。修士課程2年のとき、指導教員から提案された問題に取り組んでみたら、ちょっといい結果が出て、はまる。そうすると、また次の問題が出て、終わらない。そこで夢中になってしまって、やめられなくなりました。好きなテーマに夢中で取り組んでいるうちは単なる趣味ですが、研究を続けるということは、それを仕事にすること。アマチュアからプロに。プロになるには、コツコツ成果を出して、継続しなければなりません。研究者として生き残ることを意識したのは、博士課程を卒業するときでした。卒業後に結婚・出産を経て、限られた時間で集中して研究するようになりました。

研究というのは継続なので、集中力と体力、忍耐力が必要です。そのなかで感性や自分らしさが重要。失敗が続くこともあります、失敗のすぐ横に本当の答えがあつたりもする。失敗したときに得るものを得ながら忍耐強く続けて、そばに落ちている宝物を見逃さずに拾う、という感性が大切だと思います。



自分の研究というよりは、共同研究や若手の育成を通して、何かが残れば…。10年後、20年後に私の研究が大きな流れになって、物理の進展に貢献できたらと思う。
(上下：たばな賞受賞研究資料)

法科大学院で初めて受けた「労働法」の授業のノートは、研究の原点



研究テーマ：労働者に対する賃金の平等な支払い



理学研究科 准教授
延與 佳子

京都大学理学部卒業
↓
東京大学原子核研究所 助手
↓
高エネルギー加速器研究機構 助手
↓
京都大学基礎物理学研究所 准教授
↓
理学研究科 准教授

法学研究科 准教授
島田 裕子



研究は好きな勉強の延長。 続けているうちに研究者に

特別な人でなければ研究者になれないかというと、そうではないと思います。高校生のころから「研究者になる」と決意している人は少なくて、おもしろいな、もっと勉強したいなど続けていくうちに、いつの間にか研究者になっていたという人が多いかもしれません。

私は、弁護士になりたくて法科大学院に進みましたが、授業で初めて学んだ労働法がおもしろくて、「労働法に興味があるなら、研究者になる道もある」と先生からアドバイスされたのをきっかけに、ドイツの労働法を勉強し始めました。研究は、本を読んで正しく理解し、自分のなかで分析するということの積み重ねです。あるテーマを研究するうちに、そのテーマに近い新しい分野が気になって、研究対象が広がっていく…という感じです。

大切なのは、楽しく勉強すること。文献を読んで勉強するインプット作業はもちろんのこと、論文を書く形で成果をまとめる、アウトプット作業が必要です。これまで自分の好きな勉強の延長で研究してきましたが、社会に対する責任として、成果を出せるようにしなければいけないと考えています。

研究テーマ：骨格筋の病気・運動・環境による変化



入院中に読んだ
『免疫細胞奮戦記』。
擬人化されたリンパ球の
物語がおもしろく、
体のしくみに興味を持つ
きっかけとなった

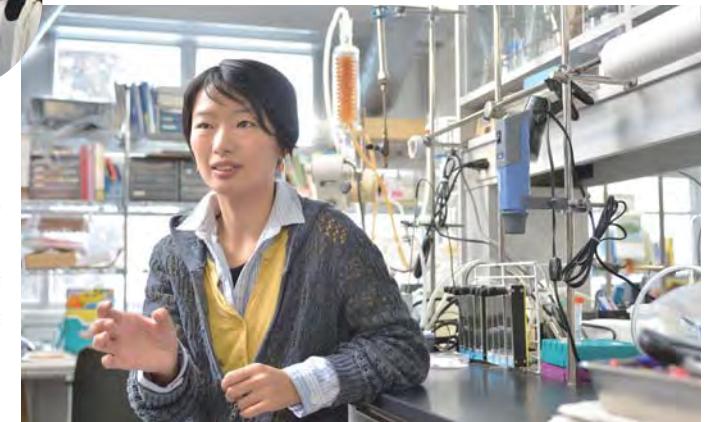
放送大学教養学部卒業
↓
京都大学人間・環境学研究科
修士課程および博士課程
↓
人間・環境学研究科 助教

人間・環境学研究科
助教
永友 文子

研究室はグランドに近いので、
学生たちとソフトボールをすることも。
公私ともに大切な仲間です



研究テーマ：植物と昆虫の間を取り扱う化学物質を分析



京都大学農学部卒業
↓
農学研究科博士号取得
↓
ペンシルヴェニア州立大学留学
↓
白眉センター 特定助教
↓
農学研究科 助教

農学研究科 助教
吉永 直子

「知りたい」という好奇心。 「なぜ？」という素朴な疑問が原点

体のしくみや働きに興味を持ったのは、高校生のときに病気になったことがきっかけです。健康とは何か、人が死ぬとはどういうことか、命とは何かという疑問を、体のしくみや働きを研究することで解いていきたいと考えました。通信制の大学で学んでいたとき、人間・環境学研究科の石原昭彦先生に出会い、先生が取り組んでおられる筋肉の研究に魅かれました。おそらく健康だったら、体が動くことなど当たり前だと思って意識しなかったかもしれません、「私という生命体を生かすために、体の中のいろんな細胞1個1個が働いてくれている」ということが先生の授業から感じられ、そのことに感動して、そのしくみや謎を解きたいと思ったのです。

研究には、子どものような知的好奇心を大切にして、素朴な疑問も無視しないで向き合うようにしています。がむしゃらに研究だけしていた修士課程のころ、共同研究者の先生から「研究者の価値」というのは、研究以外のことどれだけ楽しんでいるかだよ」と言われました。最近は、研究以外のことにも積極的に取り組み、異業種交流や社会勉強などが研究のヒントになっていることを実感しています。



糖尿病や宇宙滞在による骨格筋の変化を予防、改善する研究も行っている。入院中に出会った1型糖尿病の子どもたちなど、将来的に少しでも人の役に立てるような研究ができるたらと思う。

研究対象が好きではなくても 研究にのめり込むことも



虫と植物の生態学的研究を選んだ4年生のとき、卒業論文の研究テーマに合わせて渡されたのは、イモムシがウジャウジャ入ったシャーレでした。実は虫が苦手で最初は直視できませんでしたが、苦手意識を持ってはいけないと、イモムシをじっくり1時間、顕微鏡で観察。餌を与えたらいモムシが一斉に寄ってくるのを見て、ちょっとカワイイなと思えて。あとは、もう慣れですね。

博士課程に進んだのは、そのとき取り組んでいた研究で、どうしても結果が出なかったから。くやしくて、ムキになって、「片が付くまで卒業したくない」と。研究では、調べている対象からは結果が出ないことが多いのですが、その間に別の気になるものが出てきて、次はこちらをやってみよう…という感じで、その繰り返しです。

忙しくなると、そのときどきの研究の流れに引きずられて、ついデスクワーク中心になりがちですが、できるかぎり虫や植物を觀察する時間を大切にしています。生きものは毎日見ても何かしらの変化があり、昨日までは気づかなかった興味深い事象や現象に遭遇したり、発見できることが多々あるからです。

研究テーマ：日本の古典文学。主に平安から鎌倉・室町時代にかけての物語と和歌

日本の古典和歌を集めた『国歌大觀』(全10巻)。
学生時代はこの本で索引から1語1語探し調べた



文学研究科 准教授
金光 桂子

京都大学文学部卒業
↓
文学研究科修士課程
↓
文学研究科博士課程
↓
文学研究科 准教授

「こんなことが研究したかったんだ！」と
思ったきっかけは、
『昔話と日本人のこころ』
(河合隼雄著)を読んで



京都大学教育学部教育心理学科卒業
↓
人間・環境学研究科博士課程
↓
日本学术振興会 特別研究員 (PD)
↓
ミシガン大学 客員研究員
↓
スタンフォード大学 客員研究員
↓
こころの未来研究センター 助教
↓
こころの未来研究センター 准教授

こころの未来研究センター 准教授
内田 由紀子



文学の研究の基本は「本文」。 本を読む時間が一番長いです

子どものころから長編小説や物語を読むのが好きでした。中学生のときに源氏物語と出会い、人間の心理が非常にうまく書かれているところに魅せられました。大学に入って、源氏物語よりあの時代に作られた作者不明の物語をいろいろ読んでみると、その多くの作者が源氏物語の影響を強く受けて物語を書いたらしくことに気づきます。源氏物語そのものよりも、後者の物語を読む方がおもしろくなり、かつ、その分野の研究がそれまであまり進んでいなかったことから、自分で研究を始めました。

古典文学の作品は、昔の人の考え方や思いが表れたもの。それを読み解くことが醍醐味で、これまで人が気づいていなかった作者の思いに、初めて触れられたときにうれしくなります。「文学の研究」は、好きな作品を読んで感想文を書くというものではありません。一人よがりにならず、客観的に、古典の文章を正しく解釈することによって、作者が本当に言いたかったことを明らかにするのが「文学の研究」です。それが自分なりにきちんとできたときには、本当にこの研究をやっていて良かったと思います。



(下：京都大学文学研究科所蔵)

客観的に実証的に証明できるテーマを探することは難しい。感想や独りよがりな考えで終わらず、研究成果を上げるために、研究テーマを絞り込んでいかなければいけないと思う。



東日本大震災のあと、「日本で幸福になるということについて、今こそちゃんと考えたい」という声が多く、幸福感の研究が具体的に人に届いていることを実感。気持ちを動かされた。

研究者という仕事は、 女性に向いていると思います



古典文学の研究をしようと文学部に入学しましたが、自分がやりたいことは何かが違うと感じました。私の興味が「人のこころと文化」の問題にあると気づいたころ、河合隼雄先生の『昔話と日本人のこころ』に出会い、教育学部心理学コースに転学部。さらに、総合人間学部の北山忍先生の授業を受け、比較文化研究を通して日本人のこころや幸福感を探る、今の研究にたどり着きました。

「こころの未来研究センター」のミッションは、社会の日常の中にある「こころ」の問題に学問的に取り組むこと。農業普及指導員さんとの出会いから始まった「農をつなぐ仕事」の研究、現代社会の問題である「ひきこもり」の研究など、研究に広がりを持たせるように努めています。子どもに絵本を読み聞かせていて気づいた「日本の価値観」から、日米の絵本の比較研究も始めました。

子育てや家事で手を動かしながら、並行して研究や仕事についても考えることは女性向きなのかも。研究は集中してやらなければいけないイメージがありますが、「ながら族」的に、研究のアイデアを探し、それらを繋げていくのが、私には合っているようです。

Key Item & Spot

研究者たちのキーアイテム＆スポット

先生たちの部屋で見つけたアイテムや
京大内外のパワースポットをご紹介。
研究の合間にほっと一息ついたり、
心のよりどころであったり…。
新しい発想はこんなところから生まれるのかも。



研究室の机に置いている、
スジエビ、ミナミヌマエビ、
マリモなどが入った
「癒し」の水槽♪ <吉永>



研究室にはヤマネのぬいぐるみが。
ヤマネはJAXA（ジャクサ）の
先生と研究中！
<永友>



大学まで1時間ほど歩いて出勤。
毎日、御所を通るので、
「御所は私の庭みたいなもの」
<金光>



海で働く人に教えてもらった、
足が冷えないカナダ製の長靴。
小さめのサイズがぴったり。
<小林>



地震学をパズル感覚で学べる
教育支援グッズ（ペーパークラフトなど）も
企画・制作した。<山田>



子連れ参加OKの研究ミーティング中に
子どもが作った紙のおもちゃ。<飯間>



京大のシンボルといえば、
時計台とクスノキ。

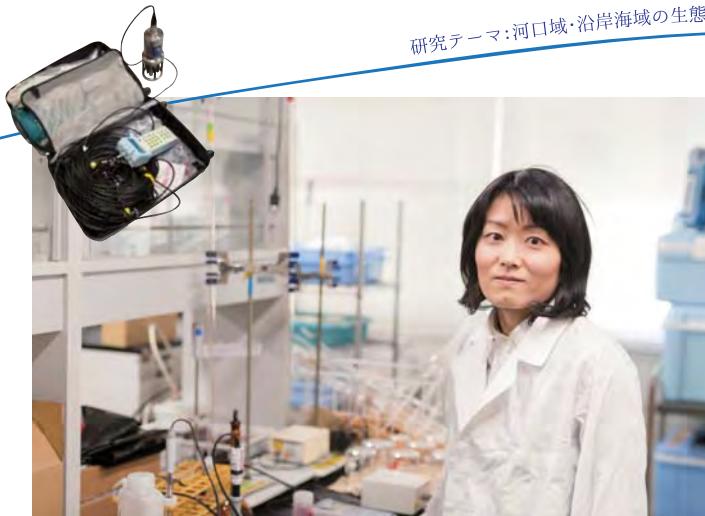


研究室の机に貼っているのは
実家で飼っている柴犬ゴロウの写真。<北村>



大正14年に建築された時計台は、
当時の雰囲気を残しつつ、
平成15年に改修されて、多目的ホール
「百周年時計台記念館」に生まれ変わった。

海中のクロロフィルを測定する装置。
調査用の道具や機器が並ぶ研究室は、
まるで倉庫のよう



研究テーマ: 河口域・沿岸海域の生態系と物質循環のしくみの解明

フィールド科学教育
研究センター 助教

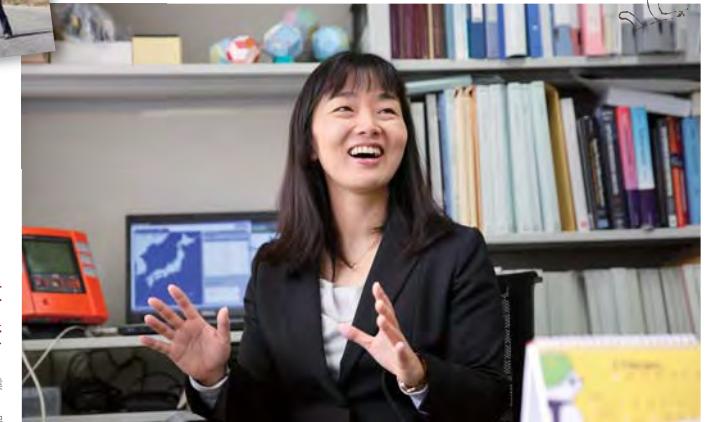
小林 志保

京都大学農学部卒業
↓
農学研究科博士課程
↓
ウェーラズ大学留学
↓
京都大学農学研究科 助教
↓
フィールド科学教育
研究センター 助教 (農学研究科併任)

手さぐりで飛び込んで行った
アメリカの大学院。
地震学のおもしろさを学びました



研究テーマ: 地震学。緊急地震速報システムのアルゴリズムの改善



防災研究所 助教

山田 真澄

京都大学工学部建築学科卒業
↓
工学研究科建築学専攻修士課程
↓
カリフォルニア工科大学理工学科 Ph.D. 課程
↓
京都大学次世代開拓研究ユニット 助教
↓
京都大学防災研究所 助教

やれるか、やれなかではなく
やりたいか、やりたくないか

研究者になりたいと思ったのは、工学部建築学科 4 年生のとき。卒業研究やゼミで、自分のやりたいテーマを自由に選んで、そのための文献を調べたりする行為がとても楽しかったからです。それまでの講義を聞くだけの受動的な授業と違い、研究は「自分から探っていくこと」。それがすごくおもしろくて、これを一生やっていけたらなんて幸せな人生だろうと思いました。人の役に立つ研究がしたくて、修士課程では木造建築の耐震性能を研究している研究室へ進学。さらにアメリカの大学で学びました。

学生のころは、何をやっていいのか、何が問題なのかすらわからず、手探り状態で不安でした。今は、何が良くて何が悪い研究かが感じ取れるようになり、テーマを選ぶときにも、これはいい研究になりそう、これはおもしろいとわかるようになりました。

企業勤務に向く人と研究に向く人、適材適所があると思います。でも、私はとにかく研究者になりましたかった。やれるか、やれないかじゃなく、やりたいか、やりたくないかだと思います。「やりたい」という気持ちが強ければ、多少難しくても、なんとかなるものです。

分析結果を図にして見ているときが一番おもしろく、感動します

沿岸で水温、塩分、溶存酸素量、pH、クロロフィル蛍光を測定するとともに海水を採集し、生物にかかる様々な項目について分析を行います。分析結果を図にしたとき、物質の分布と生物活動との相互関係、それらに対する流動などの物理現象の影響が、はっきりと見えることがあります。サンプリングや分析しているときには見えず、図にして初めて「こういう関係があったのか」とわかるので、そういうことがあるたびに感動しています。

小学生のころから理科が好きでした。中学、高校の理科の先生が、実験を通して「見て、触れる」体験をさせてくれたことで、不思議や疑問が解消され、その喜びの積み重ねがありました。研究者という職業があることを知ったのは高校生のころ。「不思議やな」「何でやろ?」と感じたことを、調べて、解明していくことを職業にできるのであれば、研究者になりたいと思うようになりました。調査するフィールドの地元の方々も含め、いろんな人にお世話になって研究を行っているので、現場の状態を正確に把握して解明するだけでなく、水産物の生産や沿岸の生態系の回復の対策に繋げたいと考えています。



修士・博士課程では、1週間ぐらい船に乗ったりするので、年間 30~60 日は海へ行っていた。今は子どもがまだ小さいので、大阪湾や小浜湾など日帰りで行ける川や海がフィールド。

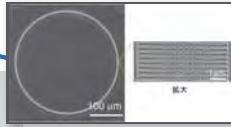


地震が起こると必ず現地に出かけ、調査をする。「社会の役に立つような研究を」という思いは常にあって、それは地震のことには限らない。最近は自然災害の研究もしたりしている。

研究テーマ：フォトニック結晶を用いた新しいレーザービームの開発



目的とするレーザービームを発振させるべく
フォトニック結晶をデザインし、
半導体レーザチップから出力させる



白眉センター／工学研究科
特定助教

北村 恭子

京都大学工学部工業化学科卒業
↓
工学研究科化学工学専攻修士課程
↓
工学研究科電子工学専攻博士課程
↓
京都大学白眉センター
特定助教（工学研究科）

研究テーマ：拡散強調MRIを用いた新たな非侵襲的乳癌診断法の開発
パリ近郊にあるニューロスピン超高磁場
MRI研究センターで、
所長のデニス・ルビアン先生との
出会いが転機に



京都大学医学部卒業
↓
京大関連病院にて初期臨床研修
↓
京大関連病院にて
放射線科後期臨床研修
↓
京都大学大学院医学研究科
放射線医学講座博士課程
↓
博士課程在籍中にフランス留学
↓
日本学术振興会 特別研究員（PD）



楽しいことがそこにあって いつも楽しくやっていけたら

研究に関心を持ち始めたのは、高校の化学の先生との出会いがきっかけです。化学の実験で失敗したときに、なぜそうなったかが気になります、うまくいかなかったことや、「これは何が起きたのだろう」と考えたことを、いつも実験レポートに書き綴っていました。そのレポートを見た先生がおもしろがってくれて…。それに、自分で推論を立てて検証していく作業がとても楽しかった。大学入学時には「京都大学に行くからには、研究者としてしっかりやっていこう」という気持ちで、まったく迷いがありませんでした。

工学部では化学工学専攻でしたが、電子工学の授業で聴いた野田進先生の講義がとても新鮮で、夢もあって、おもしろそうだなと思い、博士課程から電子工学専攻に移りました。うれしかったのは、博士課程2年生のとき、開発していたレーザーが思ったとおりに発振できること。そのときは、1月7日の学会発表申込み締切りまでに結果を出したいという気持ちが強く、大晦日夕方まで実験を続け、正月をはさんで3日から実験再開。6日に測定してみたら、思ったとおりにレーザービームが光ってくれて、すごく感動したのを覚えています。



工学系の研究室はチームプレイ。
何人もが一緒に研究に取り組む。一つの実験をするときも、いろんな人が同じ装置を使う。そういう意味でも、人との繋がりを大切にしている。



患者さんがつらい思いをしなくて済むような診断方法をめざすことが、研究を始めたころからの変わらない目標。

先生との出会いが大きな転機。 疑問から勉強、研究に発展

癌の患者さんを救いたいと医師をめざし、癌の治療や診断などの仕事がしたいと考えていました。大阪にある京大関連の病院で放射線科の研修医として勤務していたとき、乳癌のMRI（核磁気共鳴画像法）、特に、造影剤を使わない拡散強調MRIという手法を勉強しているうちに疑問に思うことがあります、症例を集めて、疑問を追究していくような形で研究を始めました。ただ、拡散強調MRIは新しい画像法で、それを教えてくれる人がおらず、どうしてよいかわからない状態でした。

転機となったのは、指導教授のフランス出張に同行したとき、またま立ち寄ったニューロスピン超高磁場MRI研究センターで、所長のデニス・ルビアン先生と出会ったこと。拡散強調MRIの発明者である先生が指導者の一人となってくださったおかげで、研究が加速。ニューロスピンへの留学も経て、今ではある程度の実績を積み上げることができ、自分の進んだ道は間違っていたなと思えます。臨床医としてMRIの診断を、研究者としてMRIの新手法開発を続け、臨床と研究の架け橋になれたらと思っています。



博士課程に進学を決めたお二人と、
博士課程1年の先輩にお話を聞きました。

研究者の道を歩みはじめて…。

◆修士や博士課程に進もうと考えたのは？

M：修士課程には進学しようと決めていましたが、博士課程まで進むとは考えていませんでした。研究がおもしろかったので、このまま続けてもいいかな…と。就職ではなく、大学に残って研究しようと決めたのは、「自分で研究を完成させたい」という気持ちが強かったからです。

H：高校生のころから研究者になりたくて、京

都大学を選びました。親がアカデミックな世界にいるのでその姿を見ていて、研究者は「楽しそう」と思っていました。修士課程には迷わず進んで、博士課程への進学は少しは迷ったけれど、研究者になりたいという思いが強く、先生方の勧めもあって進学する道を選びました。博士課程への進学を決めたときには、「本当にこの世界に入っていくんだ」と一歩踏み出した感じで、自立できるようにならなければいけないという気持ちになりました。



三宅 由花 [M]

工学研究科 博士課程1年
MRIの造影剤の有機合成、
およびその評価について研究中



星川 悠 [H]

生命科学研究科 修士課程2年
生物の老化メカニズムや寿命を研究。
神経の働きが寿命制御でどのような役割を担っているかを調べている



門松 愛 [K]

教育学研究科 修士課程2年
バングラデシュの幼児教育を研究。
主に政策面について現地で
インタビューなどを行っている



◆今までの研究生活のなかで うれしかったことは？

M：MRI造影剤のための化合物をゼロからつくる段階で苦労しましたが、求めていたものが合成でき、かつ、これまでよりも感度、精度が高かったときは、すごくうれしかったです。

H：線虫という生きものを使ってエイジングの研究をしています。条件検討や測定に苦労した実験がうまくいったときに、良かったと感じます。それの積み重ねだと思います。

K：私はバングラデシュの研究をしていますが、先輩が書かれた本や論文などを読んで、「自分もこういうおもしろい研究をしたい」とモチベーションが上がることがあります。



◆女子高校生に向けて ひと言お願いします♪

M：理系の分野では女性が少ない学科もありますが、その分チャンスもあります。ぜひチャレンジしてください。

H：自分の好きなことを突き詰めて、思いっきりやっていくのがいいと思います。そういう経験が将来、研究者になったときに生きてきます。

K：あまり深く考えすぎずに、やりたいことが見つかるようなところに行けばいいと思います。研究者は、自分にしかできないことができるので、すごく楽しいです。そういうことが好きな人は、ぜひ研究者の道へ！

京都大学では、
さまざまなイベントを実施しています。

参加すれば、京都大学がより身近に！

オープン
キャンパス
summer 夏
受験生
(高校生)



京都大学を知ろう！

京都大学を志望している高校生を対象に、キャンパスツアーや各学部説明会、模擬授業、大学による公開座談会などのイベントが開催されます。京都大学の理念や学風を、肌で感じられる絶好の機会です。夏休みに開催予定。

対象：京都大学受験予定者(高校生)／費用：無料

ジュニア
キャンパス
autumn 秋
中学生



大学ってどんなところ？

大学教員や若手研究者が毎日どんなふうに研究、議論しているのかを体験できる、中学生向けの公開授業です。講義だけでなく少人数の演習授業もあり、理系・文系さまざまなメニューがそろっています。9月ごろに開催予定。

対象：中学生約250名／費用：1人3000円

京都大学優秀女性研究者賞
たちばな賞

人文・社会科学、自然科学の分野で優れた研究成果を挙げた京都大学の若手女性研究者ならびに博士課程学生を、大学として讃える制度です。授賞式は毎年3月3日、桃の節句(ひな祭りの日)に行われます。

出前授業
autumn 秋
高校生



高校で、京都大学の授業を体感。

京都大学の大学院生や博士研究員が「学びコーディネーター」として高校を訪問し、研究活動、大学の歴史、教育研究施設の紹介など、いろいろなテーマで授業をします。高校で学ぶことの大切さや、進路に対する考え方などについて話を聞くことができます。

対象：高校生／費用：希望する高校の費用負担なし

11月祭(学園祭)

学生の一一大イベント！
一度体験してみては？



車座
フォーラム
winter 冬
対象 女子
高校生



女性研究者ってどんな人？

女性にとっての「研究者という職業」について知ることができる、女子高校生向けのイベントです。京都大学の教育体制や学生支援、学生生活なども、教員や学生スタッフから直接、話を聞くことができます。12月に開催予定。

対象：女子高校生／費用：無料

アカデミック
デイ
autumn 秋
対象
一般



研究者と語ろう！

「畠にコタツでひざ詰め対話」「お茶を片手に座談会」など、和やかな雰囲気で、市民と研究者が学問について語り合うイベントです。素朴な疑問や質問こそ大歓迎！さまざまな分野の学問と、そのおもしろみに触れてください。9月に開催予定。

参加者：一般／費用：無料



グローバルな「知」の共有のための、公開講義やサポートも！

春秋講義

京都大学における学術研究活動で培われた“知的資源”を学内外と広く共有するため、年2回、春と秋に開かれる公開講座です。テーマはいろいろ。申込不要で先着500名。しかも受講無料です。



ジョン万プログラム

「ジョン万プログラム」のうちの「学生派遣プログラム」は、世界トップレベルの大学などへの留学や寮生活などを通じて、京都大学の学生が世界で活躍できるグローバル人に育つよう、大学が授業料・滞在費・渡航費を支援するプログラムです。